

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500342		
法人名	みなと医療生活協同組合		
事業所名	高齢者グループホームかめじま(つるユニット)		
所在地	名古屋市市中村区亀島一丁目5-30-1		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2390500342-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生協の事業所として地域の組合員さんの協力や、敷地内の他事業所の職員等とも連携しながら事業所の運営をしている。
 ご本人はもちろんご家族とのつながりも大切にし、家庭的で笑顔のある温かい雰囲気の中で生活できるように心がけている。季節ごとの行事にも力を入れており、入居者様とともに取り組めるようにしている。
 また、入居者様の普段の様子をお伝えるため、毎月それぞれ担当を決めて個別に家族に向けて写真入りの手紙を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者グループホームかめじまは2ユニット18名の小さな施設ですが、7階建の『高齢者複合施設かめじま』の2階部分に位置し、法人内の5つものサービス種別事業所も開設が予定され、安心の体制にあります。書面開催となっている運営推進会議においても、事業所内の協議に同法人診療所看護師が加わってくださり、新型コロナウイルスにおいても総合病院の専門家に助言を得ることもでき、先達である20余ある事業所の末っ子的存在として側面的支援を受けることが叶っています。職員も応援を支えに、こどもの日は金太郎に扮して尻相撲を披露、ひな祭りや節分にも扮装の職員が笑い声溢れる時間をつくっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立した生活が困難でも家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、可能な限り個々の有する能力に応じ、落ち着いて、安らぎのある、いきいきとした生活が過ごせる」の理念を掲示し、実践できるようにしている。	家族アンケートには事業所へのエールがあがっていて、良好な関係からは理念に基づいた取組が視えます。またこどもの日、ひな祭りや節分の時節行事では職員が三人官女や鬼、金太郎の姿で利用者を歓ばせていることから浸透が伝わります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	敷地内に、学区が運営するふれあいセンター、みなと医療生協の組合員の活動場所がある。コロナ禍でありなかなか交流できていないが利用者と共にイベントに参加したり、場所を開放したり少しずつ交流している。	外部とはできませんが、敷地内の事業所とは感染症対策に配慮した交流があります。併設のサービス付高齢者高齢者向住宅の作品展示では、開始前に作品見学をさせてもらえるとともに小さなプレゼントもあり、利用者の気分転換の一環となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みなと医療生協として認知症カフェの準備をすすめている。来年度には、認知症の学習会も予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染が広がったことにより文書による開催となったが、ご家族様や医師などよりご意見、ご要望をいただきサービスに反映させるようにしている。	新型コロナウイルスの影響で書面開催となっておりますが、市役所並びに地域包括支援センターには2ヶ月分の活動内容を議事録の代替として届けています。また書面にまとめる前には、利用者家族や医師からの意見、要望を仰ぎ反映させるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ対策、認定調査や家賃助成等において連携して取り組んでいる。また、みなと医療生協として実施予定の認知症カフェの準備にはいきいき支援センターにご協力をいただいている。	住宅費の助成に係る相談や更新業務では管理者や介護支援専門員がそれぞれ市役所窓口に出向いています。市からはマスクや手袋の支給もあるほか、PCR検査を無償提供してもらっています。また地域包括支援センターとも空き情報の情報共有ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の学習会を開催して職員への周知やユニットごとでの会議で検討している。	厚労省通達に基づいた指針を作成のうえ、「身体拘束防止委員会」を設置、次回開催日をレジュメに記載して「四半期毎開催」を遵守しています。職員への理解浸透を念頭に取組んでいることが議事録からも確認できます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の委員会を立ち上げたところであり、管理者を中心に学習・方針の検討を行い、スタッフ向けに虐待に対する意識調査を行ったりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について知っているが、職員への学習会の企画や日常的な話し合いなどはまだできていない。必要性についても管理者が判断している状態。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	対応できている。項目ごとに説明し、疑問・質問の確認をしている。介護報酬改定時なども説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	みなと医療生協として各事業所に「虹の箱」というご意見を設置し、組合員で構成された事業所利用委員会により各事業所へ連絡、検討結果を公表する仕組みがある。	家族の意向には速やかに対応することを旨としています。例えば、居室担当者が手書きでお便りを毎月出していましたが「読みにくい」との家族意見を検討、今月からはパソコンの打ち出しにする予定です。コロナ禍で会える機会が減っているため写真も同封しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の際に、職員からの意見等聴取しており、法人本部へ報告している。	ユニット内で話し合った後に2ユニット合同の全体会議をおこなうことを標準とし、状況に応じて臨機に方法を変え、職員に負担のないように配慮しています。職員意見から遅番の時間を利用者の状態によって弾力運用できるようにした例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部へ勤務状況等は毎月報告し問題があればその都度相談している。勤務環境や条件の整備も法人全体として取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内介護施設に協力を得ながら研修を行っている。毎年通信教育が受けられるシステムもある。(終了時に半額補助がある。)今後は、法人で取り組んでいるMBO(目標によるマネジメント)に事業所としても取り組む予定としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みなと医療生協として介護事業所全体での会議を開催しており、情報交換している。また医療福祉生協連の介護事業所研修に参加して、他法人とのネットワークを構築している段階。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や入居後にご本人としっかりコミュニケーションをとるようにし、困りごとや不安・要望などが表出できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、ご家族の困りごとや不安などを引き出せるように心がけている。ご要望に関しても、できるできないにかかわらずまずは受け止める姿勢で伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご本人、ご家族との面談を通じ管理者やケアマネージャーが中心となりどのような支援が必要か判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のこれまでの職歴によっても異なるが、どうしても介護する側としての意識が高くなってしまっている。すべての職員が、入居者様を人生の先輩として共に暮らす者としてかわられるよう会議等での意識付けをしていきたいと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってもご家族が一番という方が多いので、ご家族からの支援も可能な範囲でお願いしている。また、面会時や電話連絡時にはご家族の心情や意向をくみ取りながら情報共有するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で思うように外出することは難しく、現時点ではご家族との面会以外は、電話等での連絡が行えるような支援しかできていない。現在、その他にもできることがないか検討しているところである。	11月にコロナが落ち着いて面会が再開されたときは「ずっと待っていた、嬉しい」と家族が喜んでくださり、ほっとしたのもつかの間、現在は再び硝子越しに戻っています。事業所の中では縫い物が特異な人や書道の指導者だった利用者が趣味を継続しています。	「久しぶりに会うと認知症の進行が目に見えてわかる」との対策として、家族にはこまめに写真を届け、本人にはリハビリ体操などで身体を動かすメニューを増やす等の検討を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でできた関係性を考慮し、他者との交流も苦手な方は手伝いながら係わって共に生活する社会ができるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在サービス利用終了は2名のみであるが、いずれも入院後にお亡くなりになっている。入院中も家族と連絡をとり、相談を受けるようにしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、ご本人やご家族より希望や意向をうかがっている。また、入居後はご本人とゆっくり話をして希望や意向を把握できるようにしている。	アセスメント手法やアプローチの様式を統一してはいないものの会話をもつことは大切として、リビングにはソファを2つ置き、いつでも話が聞けるようにしています。また「寝れない…」と起き出してきた利用者とは夜半の茶話会になることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族にこれまでの生活歴や利用してきたサービスを記入してもらい、経過を確認している。また、それをもとにご本人への聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化することもあるが、申し送りやカンファレンス等にて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当が中心となり、まずはご本人やご家族との話し合いから介護計画の原案を作成し、その他の職員と相談して決定している。必要時には看護師等の意見も取り入れている。	介護計画書1表の意向欄には利用者本人のそのままの言葉が記載されていて、想いがダイレクトに伝わります。開設からコロナ禍となってしまう、サービス担当者会議は「家族も招いて実施したい」との考えが未だ実現してはいません。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に対しては気になることや起こったことを積極的に記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療生協の事業所として、他の介護事業所や医療との連携だけでなく、地域の組合員さんと協力しどんなことができるか検討中の段階。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でなかなか交流できないことが多く、地域資源との協働も難しい現状がある。地域の組合員さんや学区の方々とのつながりを維持し、今後活かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同医療生協の診療所をかかりつけ医とし、必要に応じて同医療生協の病院でも受診できるよう連携をとっている。また、ご本人やご家族の希望に合わせて他の医療機関への受診の支援もしている。	コロナ禍で「待合室の滞留が心配」とのこともあって、在宅の頃からのかかりつけ医から全員が協力医の訪問診療に変更しています。医師は同法人の診療所から月2回訪れ、立ちあいは准看護師資格をもつ事業所の介護職員または管理者としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務だが看護職員が勤務しており、気になることは相談している。必要に応じては同医療生協の病院内医療連携室や往診先診療所の看護師とも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内病院や診療所とは普段から連絡をとり、受診や入院の相談をしており、連携がとれている。入居者様のかかりつけ病院(法人外)への受診や入院時にも情報共有ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期をどう過ごしたいかの意向を聞いている。当施設での看取り介護については現在十分な体制でないが、今後取り組んでいく方針であることを伝えている。往診医と体制について相談している段階である。	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、家族には希望があれば看取りに前向きに取り組む考えがあることを伝えていきます。協力医は日頃から事業所の運営を理解くださっており、普段の健康管理だけでなく看取りにも心強い存在です。	開設したばかりで即看取り体制がつけられるか不安もあるとのことですので、まずは死生観など精神面の研修実施を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催したり、緊急時のフローチャートを事務所内に貼り出したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練の際に災害時の避難訓練も行っている。同敷地に学区のふれあいセンターがあり、合同での避難訓練等を今後計画していく予定となっている。	年2回、夜間想定・日中想定法定訓練を実施しています。水害時には保育園の避難場所となっていることから、昨年9月には避難訓練の受け入れをおこなっており、新型コロナウイルス感染症が終息したら合同で実施したいと考えています。	備蓄は3日分を複合施設全体として施設長が管理しており、事業所では視認のみですが、今後は試食会などで内容に関わっていけたら、なおよいと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシー保護について学習会を行い、職員への意識付けを行っている。	職員の3割程が男性で同性介助に無理はありませんが、必要であればユニット間で協力しあえる態勢にあります。居室前のノック、トイレの半開きはNG、アイコンタクトでの声掛け、呼称は名字を「～さん(2名以上の場合は下の名前)」などが職員に浸透しています。	倫理・法令の研修が年間研修に位置づけられていますので、「倫理・法令遵守・接遇」として、接遇研修を定期的を実施することで振り返りの機会となることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの折々の会話の際に、ご本人の気持ちが聞けるように、職員は意識するようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康上問題なく、事故やけがにつながらない範囲で、できるだけ個々のペースに合わせて1日過ごしていただくようになっている。ただし、こちらから誘って過ごしていただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を確認し、ご家族にも協力してもらいながら、着るものや整容の支援をしている。こだわりがある方には無理強にならないよう見守ったり、時にはマニキュアを塗るなどみんなで楽しむこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることは楽しみなので、準備・作ること・食べること・片付けはその時の調子にもよるが、可能な範囲で一緒に行うようになっている。	「七夕にはちらし寿司に海老の天ぷらも添えて」と行事食にも力を入れ、食事は利用者の飲む顔に職員も嬉しい気持ちになります。おやつは「何食べたい」に応じて追加するためボリューム満点ですが、車いすごと計測できる体重計も備えて太りすぎにも気づかっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通じての栄養バランスを考え、摂取量は注意して支援しているが、もともと水分量の少ない習慣だった方には、少しずつ1日量を増やしてもらえよう嗜好品や提供方法を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣がなかった方は毎食後のケアはできないときもあるが、毎食後声掛けをし、必要に応じて歯磨きや義歯洗浄の支援をしている。歯科医師からの指示によりケアを行うこともある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どのかたもトイレに座っていただくようにしている。放尿や失禁が続くときは排泄パターンを見つけられるよう情報共有しながら検討している。	平均介護度2.1と利用者は壮健です。車いすを利用する人もいますが、立位が保てるため職員は移乗移動を手伝うのみで、2人で介助をおこなう必要のある利用者は現在いません。家族の経済的負担を考え、バットの大きさや消費量についても検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールの重要性は認識しており、散歩や体操などの運動や飲水・食事からの水分量は毎日気を付けている。食事からも食物繊維や乳酸菌がとれるように意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否のある方もいるため、週に2回は入浴できるように曜日は決めていますが、ご本人の気分がのらないときは無理せず別の日に入れるよう支援している。入浴剤などで楽しんでいただけるようにしてお誘いすることもある。	「毎日お風呂に入りたい」という人は皆無で、どちらかというと拒否気味な傾向が全体にあります。気分を変えてもらうためにも浴剤を用意し、柚子湯やしょうぶ湯などの時節風呂もおこなっています。湯船では気持ちがほぐれるのか懐メロを歌い出す人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気分のすぐれないときは休息して頂いたり、環境整備や安全を配慮し就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬のしおりがいつでも最新の情報で見られるようにしてあり、下剤などの調整の指示があるものは別包にして管理しているため、看護師に確認しながら服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ストレスにならない程度の役割を見つけることは難しいこともあるが、好きなことをしながら、時には季節ごと行事を開催して楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で思うように外出はできていないが、運動のためにも裏の公園へ散歩に出かけるようにしている。タイミングが合えば保育園児たちの遊ぶ姿を微笑ましく見ることができる。	保育園と公園に隣接し、子どもの笑い声が響く明るく開放的な立地です。徒歩ででかける範囲は外気浴がてら散歩を励行しており、「〇〇が食べたい」「買いたい」には、「みんなのおやつを買おうね」とコンビニエンスストアに立ち寄ることもあります(短時間)。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を使うところへ出かけることはできていないため支援できていない。今後、外出支援とともに買い物の支援ができるようにしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在はご本人の希望があれば支援している状態。今後は、もう少し積極的に手紙や電話の支援ができるようにしたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間で居心地の良さは共通ではないこともあるが、生活感や季節感を取り入れている。	感染後の対策を検討してみましたが、利用者の症状やハードを考慮するとゾーニングや隔離が難しく、「まずは予防」と考え、体調管理を第一として「(職員は)疑わしいときは出勤しない」と決め、コンタクトポイントの消毒や日中5、6回にも及ぶ換気に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	混乱を防ぐために所定の位置を決めているが、それ以外にも使用できる場所をいろいろ作り、心地よい過ごし方ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家財道具をお願いしているが、新しく備えられるご家族もいるため、家族写真やお好きなもので居心地が良いと感じられるようにしている。	「家宅から馴染みのものを遠慮無く持ち込んで欲しい」として、備え付けはベッドとサイドテーブルのみとしています。事業所のもくろみは概ね当り、筆筒・テレビ・テーブルと椅子・大きな絵画・ラジオなど、居室には思い思いのものが並んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や車いすでも利用できる洗面等があり誰でも安全に生活できるような工夫がされている。また、居室の目印はそれぞれに合わせて作成したり、トイレ等もわかりやすく掲示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500342		
法人名	みなと医療生活協同組合		
事業所名	高齢者グループホームかめじま(かめユニット)		
所在地	名古屋市中区亀島一丁目5番30-1		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&ji_gyosyoCd=2390500342-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地
訪問調査日	令和4年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生協の事業所として地域の組合員さんの協力や、敷地内の他事業所の職員等とも連携しながら事業所の運営をしている。
ご本人はもちろんご家族とのつながりも大切にし、家庭的で笑顔のある温かい雰囲気の中で生活できるように心がけている。季節ごとの行事にも力を入れており、入居者様とともに取り組めるようにしている。
また、入居者様の普段の様子をお伝えするため、毎月それぞれ担当を決めて個別に家族に向けて写真入りの手紙を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者グループホームかめじまは2ユニット18名の小さな施設ですが、7階建の『高齢者複合施設かめじま』の2階部分に位置し、法人内の5つのサービス種別事業所も開設が予定され、安心の体制にあります。書面開催となっている運営推進会議においても、事業所内の協議に同法人診療所看護師が加わってくださり、新型コロナウイルスにおいても総合病院の専門家に助言を得ることもでき、先達である20余ある事業所の末っ子的存在として側面的支援を受けることが叶っています。職員も応援を支えに、こどもの日は金太郎に扮して尻相撲を披露、ひな祭りや節分にも扮装の職員が笑い声溢れる時間をつくっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立した生活が困難でも家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、可能な限り個々の有する能力に応じ、落ち着いて、安らぎのある、いきいきとした生活が過ごせる」の理念を掲示し、実践できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内に、学区が運営するふれあいセンター、みなと医療生協の組合員の活動場所がある。コロナ禍でありなかなか交流できていないが利用者と共にイベントに参加したり、場所を開放したり少しずつ交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みなと医療生協として認知症カフェの準備をすすめている。来年度には、認知症の学習会も予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染が広がったことにより文書による開催となったが、ご家族様や医師などよりご意見、ご要望をいただきサービスに反映させるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携を密にとっているとは言えない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の学習会を開催して職員への周知やユニットごとでの会議で検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の委員会を立ち上げたところであり、管理者を中心に学習・方針の検討を行い、スタッフ向けに虐待に対する意識調査を行ったりしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について知っているが、職員への学習会の企画や日常的な話し合いなどはまだできていない。必要性についても管理者が判断している状態。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	対応できている。項目ごとに説明し、疑問・質問の確認をしている。介護報酬改定時なども説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	みなと医療生協として各事業所に「虹の箱」というご意見を設置し、組合員で構成された事業所利用委員会により各事業所へ連絡、検討結果を公表する仕組みがある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の際に、職員からの意見等聴取しており、法人本部へ報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部へ勤務状況等は毎月報告し問題があればその都度相談している。勤務環境や条件の整備も法人全体として取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内介護施設に協力を得ながら研修を行っている。毎年通信教育が受けられるシステムもある。(終了時に半額補助がある。)今後は、法人で取り組んでいるMBO(目標によるマネジメント)に事業所としても取り組む予定としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みなと医療生協として介護事業所全体での会議を開催しており、情報交換している。また医療福祉生協連の介護事業所研修に参加して、他法人とのネットワークを構築している段階。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や入居後にご本人としっかりコミュニケーションをとるようにし、困りごとや不安・要望などが表出できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、ご家族の困りごとや不安などを引き出せるように心がけている。ご要望に関しても、できるだけにかかわらずまずは受け止める姿勢で伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご本人、ご家族との面談を通じ管理者やケアマネージャーが中心となりどのような支援が必要か判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のこれまでの職歴によっても異なるが、どうしても介護する側としての意識が高くなってしまっている。すべての職員が、入居者様を人生の先輩として共に暮らす者としてかわられるよう会議等での意識付けをしていきたいと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってもご家族が一番という方が多いので、ご家族からの支援も可能な範囲でお願いしている。また、面会時や電話連絡時にはご家族の心情や意向をくみ取りながら情報共有するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で思うように外出することは難しく、現時点ではご家族との面会以外は、電話等での連絡が行えるような支援しかできていない。現在、その他にもできることがないか検討しているところである。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でできた関係性を考慮し、他者との交流も苦手な方は手伝いながら係わって共に生活する社会ができるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在サービス利用終了は2名のみであるが、いずれも入院後にお亡くなりになっている。入院中も家族と連絡をとり、相談を受けるようにしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、ご本人やご家族より希望や意向をうかがっている。また、入居後はご本人とゆっくり話をして希望や意向を把握できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族にこれまでの生活歴や利用してきたサービスを記入してもらい、経過を確認している。また、それをもとにご本人への聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化することもあるが、申し送りやカンファレンス等にて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当が中心となり、まずはご本人やご家族との話し合いから介護計画の原案を作成し、その他の職員と相談して決定している。必要時には看護師等の意見も取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に対しては気になることや起こったことを積極的に記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療生協の事業所として、他の介護事業所や医療との連携だけでなく、地域の組合員さんと協力しどんなことができるか検討中の段階。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でなかなか交流できないことが多く、地域資源との協働も難しい現状がある。地域の組合員さんや学区の方々とのつながりを維持し、今後活かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同医療生協の診療所をかかりつけ医とし、必要に応じて同医療生協の病院でも受診できるよう連携をとっている。また、ご本人やご家族の希望に合わせて他の医療機関への受診の支援もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務だが看護職員が勤務しており、気になることは相談している。必要に応じては同医療生協の病院内医療連携室や往診先診療所の看護師とも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内病院や診療所とは普段から連絡をとり、受診や入院の相談をしており、連携がとれている。入居者様のかかりつけ病院(法人外)への受診や入院時にも情報共有ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期をどう過ごしたいかの意向を聞いている。当施設での看取り介護については現在十分な体制でないが、今後取り組んでいく方針であることを伝えている。往診医と体制について相談している段階である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催したり、緊急時のフローチャートを事務所に貼り出したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練の際に災害時の避難訓練も行っている。同敷地に学区のふれあいセンターがあり、合同での避難訓練等を今後計画していく予定となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシー保護について学習会を行い、職員への意識付けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの折々の会話の際に、ご本人の気持ちが聞けるように、職員は意識するようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康上問題なく、事故やけがにつながらない範囲で、できるだけ個々のペースに合わせて1日過ごしていただくようになっている。ただし、こちらから誘って過ごしていただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を確認し、ご家族にも協力してもらいながら、着るものや整容の支援をしている。こだわりがある方には無理強いにならないよう見守ったり、時にはマニキュアを塗るなどみんなで楽しむこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることは楽しみなので、準備・作ること・食べること・片付けはその時の調子にもよるが、可能な範囲で一緒に行うようになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通じた栄養バランスを考え、摂取量は注意して支援しているが、もともと水分量の少ない習慣だった方には、少しずつ1日量を増やしてもらえよう嗜好品や提供方法を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣がなかった方は毎食後のケアはできないときもあるが、毎食後声掛けをし、必要に応じて歯磨きや義歯洗浄の支援をしている。歯科医師からの指示によりケアを行うこともある。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どのかたもトイレに座っていただくようにしている。放尿や失禁が続くときは排泄パターンを見つけれよう情報共有しながら検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールの重要性は認識しており、散歩や体操などの運動や飲水・食事からの水分量は毎日気を付けている。食事からも食物繊維や乳酸菌がとれるように意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の拒否のある方もいるため、週に2回は入浴できるように曜日は決めているが、ご本人の気分がのらないときは無理せず別の日に入れるよう支援している。入浴剤などで楽しんでいただけるようにしてお誘いすることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気分のすぐれないときは休息して頂いたり、環境整備や安全を配慮し就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬のしおりがいつでも最新の情報で見られるようにしてあり、下剤などの調整の指示があるものは別包にして管理しているので、看護師に確認しながら服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ストレスにならない程度の役割を見つけることは難しいこともあるが、好きなことをしながら、時には季節ごと行事を開催して楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で思うように外出はできていないが、運動のためにも裏の公園へ散歩に出かけるようにしている。タイミングが合えば保育園児たちの遊ぶ姿を微笑ましく見ることができる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を使うところへ出かけることはできていないため支援できていない。今後、外出支援とともに買い物の支援ができるようにしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在はご本人の希望があれば支援している状態。今後は、もう少し積極的に手紙や電話の支援ができるようにしたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間で居心地の良さは共通ではないこともあるが、生活感や季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	混乱を防ぐために所定の位置を決めているが、それ以外にも使用できる場所をいろいろ作り、心地よい過ごし方ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家財道具をお願いしているが、新しく備えられるご家族もいるため、家族写真やお好きなもので居心地が良いと感ぜられるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や車いすでも利用できる洗面等があり誰でも安全に生活できるような工夫がされている。また、居室の目印はそれぞれに合わせて作成したり、トイレ等もわかりやすく掲示している。		